

復興事業にともなう発掘調査に対する 奈良文化財研究所の取り組み3

今回は、福島県南相馬市東町遺跡、^{かみしぶさほらだ}上渋佐原田遺跡の発掘調査支援を実施しました。両遺跡は、防災集団移転事業にかかる住宅建設にともなう発掘調査で、期間は2014年5月7日から7月25日まで合計67日間、のべ29名の職員を派遣しました。

東町遺跡は、石組炉をもつ縄文時代中期の竪穴建物等が20棟以上検出された集落遺跡です。奈良では、なかなかお目にかかれない時期の集落遺跡のため、はじめは戸惑うことも多かったのですが、周りの調査員に助けていただいて、徐々に慣れることができました。上渋佐原田遺跡は、9世紀後半の集落と考えられますが、貞観地震(869年)と時期が重なります。津波により被災した人々が高台へ集落を移転させた可能性があります。千年後、歴史は繰り返されることを強く印象付ける調査となりました。

さて、これらの発掘調査は、南相馬市だけでなく、福島県や県財団、県内の市町村、沖縄県、高知県、京都府、茨城県の職員等、各地からの調査員が集結して調査をおこないました。奈良文化財研究所は、発掘調査はもちろんのこと、ポールを使用してタブレット等で遠隔操作する写真撮影や測量機材の提供といった調査関連分野でも協力し、発掘調査の効率化と高品質化を両立させることを目指しました。両遺跡とも遺構が多く、面積も広く、期日も限られていました。その中で、調査メンバーが、より効率的な調査の進め方を議論・実践することで、次第に調査員間の一体感が強まっていきました。復興事業を通じて各地のみなさんと協力体制を築けたことも、かけがえのない財産となりました。(都城発掘調査部 青木 敬)



東町遺跡でポールを使った高所撮影をおこなう